

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1270101825
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	大森台ケアセンターそよ風
所在地	〒260-0811 千葉市中央区大森町250-1 (電話) 043-305-1701

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年3月3日

【情報提供票より】(20年11月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	7 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 4.3 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000円	その他の経費(月額)	水光熱費15,000+管理費20,000+実費	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円		1ヶ月当たり 45,000 円	

(4) 利用者の概要(11月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	69 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	斉藤労災病院 デンタルクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大森台ケアセンターそよ風は地域に溶け込んだグループホームである。自治会にも加入しており、神社のお祭りなど、地域の一員として役割を担っている。ホーム独自で作上げた理念は「希望を実現しよう」で、職員は入居者の希望が一つでも多く叶えられるよう努めている。介護計画は、担当者だけでなく関係者全員の情報を集約し、個別のニーズに沿って作成されている。日々のケアにおいても外泊・買い物・散歩など個々の要望に沿って支援している。生活は事業所側の決まりや都合を優先するのではなく、入居者が今日どうしたいかを優先させている。買い物・料理などは、入居者と職員が一緒に行っており、職員は入居者に支えられていると感じているとのこと。ターミナルケアについては入居時に聞き取りをし、最期まで自分らしく暮らせるよう心掛けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域交流の推進については、新たに保育園とも交流を持つようになった。鍵をかけないケアの実践では、全職員が協力し、午前中のみ施設をしないようにした。災害対策は、消防署に意見を求め、9月に災害避難訓練を実施した。今後はホームの防災マニュアルを作成し、全職員が防災機器の使用法を共有することが必要と思われる。また近隣の協力も含め、消防署の立会いを得た訓練の実施も望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的については運営者管理者・職員間で話し合わせ、意識の変革や気づきに繋げることが出来ると理解され共有されている。改善点に取り組むツールとして改善評価シートの作成が望まれる。
重点項目	運営推進会議のおもな討議内容及びそれを生かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2~3ヶ月に一度行われている運営推進会議は、入居者・入居者家族・自治会長・自治会役員・あんしんケアセンター職員・訪問看護師など、幅広いメンバーで構成されている。ホームの現状・問題点・評価結果・改善点などを議題とし、サービスの質の向上に向けた意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談の窓口を設置している。また、家族からの日々の連絡や面会時の要望・意見を聴取している。月1回介護相談員の訪問もある。家族の意見や苦情等は職員会議で話し合わせ、結果を家族や運営推進会議で報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会への加入により、地域の中心的な活動である夏祭りや公園掃除などに参加している。更にホームへの理解を深めてもらえるよう、月刊のホーム便りを回覧に加えてもらい、より多くの人に理解してもらい取組みも始めた。小学校との交流は得られなかったものの、保育園との往来交流が実現している。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念として『希望を実現しよう』をホームで作し、掲げている。入居者が毛筆で書いた理念が額に入れられ、壁の数ヶ所に掛けられている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員ともに業務を優先するのではなく、入居者個別の対応を重視している。今入居者が何を望んでいるのかを把握し、日常生活の中で、具体的な希望をかなえるという理念に沿ったケアを実践している。理念は会議やミーティングで折に触れ職員間で確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として地域活動に参加している。毎日のように出かけている買い物や散歩の際に近隣の人と顔見知りになっている。ホームの駐車場に訪問販売に来る豆腐屋とパン屋は、隣近所の人からも利用されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で評価の意義を理解し、会議で評価結果を共有し、振り返りや気づきとしている。今回は自己評価票を職員全員に配布して記入を行った。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3カ月で定期的に行われる運営推進会議は、ホームの現状・改善点・事務処理報告・評価の取り組みなどを議題とした報告・意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしんケアセンターと密に連絡を取っている。行政の社会援護課とは日頃より連携し、サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月状況報告書を居室担当者が作成し、日々の入居者の様子や金銭報告を手紙で行なっている。メールや電話でもこまごました個々の対応をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情の窓口を設置している。千葉市介護相談員の訪問が月1回行われ、家族の訪問時に声掛けして意見が出やすいように配慮し、それをミーティングに反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限に抑えている。実際に代わる場合は家族には手紙や電話で、入居者には個別で配慮し報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所本部で年間研修計画が作成され、常勤者は毎月研修を受ける体制が整っている。他のセンターとの意見交換・事例検討・事故報告等もその場で行なわれている。研修内容はミーティング等で報告している。	○	今後は新人研修および非常勤者の研修についても年間の研修計画を立て、内部外部を問わず参加できる体制が整うことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特養・病院・ケアマネージャーなど他事業所と月ごとの食事会や情報を交換する機会を作っている。現場職員は、任意としているが参加が少ない。		他の事業者との交流は、職員の意識向上や刺激になると思われる。現場職員の参加が少ないようなので今後は、職員が出席出来る環境作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学を行い家族や居宅のケアマネジャーと連携し、生活状況やニーズを把握できるようにしている。繰り返し説明を重ね相談しながらその人らしい生活ができるような環境作りに努めている。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者にとってより良い生活となるよう、共に支え合う関係を大切にしている。作法・昔からの習慣・着付け・調理方法・味付けなども教えてもらいながら、協働しながらの関係を実現している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを使い、丁寧なアセスメントを行っている。ホームの理念である「希望を実現しよう」に沿った支援を全職員で認識し、入居者、家族から話を聞くことで思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式アセスメントシートから抽出した入居者の思いや課題を介護計画作成時に関係者で話し合い、介護計画の作成を行っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6か月毎に行っている。また、カンファレンスは2～3ヶ月に一度の頻度で行い、毎月モニタリングもしている。また、状況変化が見られた時や家族の要望が変わった時は、その都度介護計画の作成をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊、買い物、神社への参拝等、個別に入居者の要望に応じた柔軟な支援を行っている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は入所前からのかかりつけ医の継続的な受診をしている。緊急の場合は往診を依頼している医療機関に診てもらうこともある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員納得のもと、家族、医療機関と連携を取りながら終末期ケアをする体制は出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を守りながらさりげない声かけを行っている。呼ぶ時は「さん付け」を基本としているが、入居者・家族からの要望で愛称で呼ばれている方もいる。記録は事務所で、重要事項は鍵のかかる書庫で保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「入居者が主体」を全職員が認識し、朝がゆっくりな人がいたり、一人ひとりのペースに沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の持っている力を活かし、出来ることをやってもらうよう声かけをしている。食事の下準備やテーブル拭き、下膳、食器洗い等を職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴支援を行っているが、希望があればいつでも対応している。入浴拒否の入居者には声かけの工夫をし、気持ちよく入浴ができるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事、洗濯、野菜作り、金魚・メダカの餌やり等の出番がある。他に裁縫の得意な入居者が刺し子や巾着袋を作る、計算の得意な入居者には一緒に買い物に行ってもらおう等、一人ひとりの得意分野を活かした支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は毎日散歩をしている。食材の足りない物を近くの商店街に買いに行く等、積極的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの実践を職員間で話し合い、時間を決めて玄関の施錠を外した。開設以来初めての試みであり、今後少しずつ時間を増やし支援をしていく話し合いがされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	9月に事業者独自による避難訓練が行われた。今回は消防署の協力が得られなかったこともあり、消火器の使い方等は職員に周知されていない。災害時の協力については地域に呼び掛けをしている。		災害マニュアルを整備したり、場面を想定した訓練等、全職員でどんな災害にも慌てずに対応できるよう、地域住民や消防と協力した定期的な訓練が必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部の管理栄養士による献立表で調理している。入居者の希望で献立の変更は時々あるが、一日の摂取量は確保されている。水分量はチェック表をつけ配慮している。また、カロリーや水分制限のある入居者は医療機関との連携をとりながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂には柔らかな日差しが差し込んでいる。壁には飾り物で季節感を出す等工夫がされており、居心地の良い空間になっている。また、庭の花壇には入居者が育てた花が咲いていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には広い造り付けのクロゼットがあり、衣類、布団等はクロゼットを使用することもあって、大きな家具の持ち込みは少ない。しかし、入居者はそれぞれ思い思いの馴染みの品を持ち込み、安心して過ごせる部屋になっている。		